

○事業所名	希望の花 西大和		
○保護者評価実施期間	2026年3月9日		2026年3月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年3月23日		2026年3月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2026年3月9日		2026年3月23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者・学校・事業所の三者が密に情報を交換し、個別支援計画を基軸とした目標の共有を行うことで、家庭と学校での過ごし方を統合し、生徒が混乱することなく安心して課題に取り組める一貫した支援体制の構築に努めていること。	個別支援計画に掲げた目標を、学校現場やご家庭に合わせて実行可能なスモールステップへと専門的な視点で整理し、各環境で共有していること。これにより、共通の視点で生徒を見守るための「具体的な手立て」を明確化し、支援の方向性が整うよう努めていること。	事業所全体でICT化を推進しています。関係各所の事務負担を軽減し、より本質的な支援検討に時間を充てられるよう積極的に取り組んでまいります。具体的には、アンケート等の各種調査に電子フォームを導入することで、紙媒体の管理や電話対応に伴う負担を削減し、簡略化を図る予定です。
2	児童発達支援、放課後等デイサービス、相談支援事業を併設する強みを活かし、福祉サービス全般の知見に基づいた多角的な視点から支援を行っています。学校での課題に対しても、生活全般を俯瞰した適切な助言や調整に努めることで、学校現場において課題を直接共有し合える円滑な連携窓口としての役割を担えるよう取り組んでいます。	療育担当者や相談支援員などのスタッフ間で適宜情報共有を行い、生徒の様子を統合することで多角的な視点から支援方針を検討していること。これらを基に、学校現場だけでは解決が難しい課題に対しても、専門的な窓口として情報提供や調整に動ける体制を整えていること。	スタッフ間の連携による多角的な分析結果を、学校現場で即座に活用できるよう、要点を絞った簡潔な表現に整理して提示すること。専門的な知見を、実際の指導場面で取り入れやすい具体的な「配慮の視点」へと整理し共有できるよう努めていきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援事業再開にあたり、担当者が個別に丁寧な連携を図ることで評価をいただいている一方、組織内での多層的なフォローをより盤石にするための仕組みづくりが課題だと思います。	限られた人員体制のため、活動時間が限定的になりやすく、連絡調整や情報の共有を行うための時間確保に制約があること。関係各所との情報共有をより円滑に行うための仕組み作りについての運用ルールをさらに整理していく必要があること	限られた時間内でも滞りなく連携が図れるよう、連絡手段や共有方法の効率化に引き続き検討を行う。
2			